

子どもをとりまく社会教育環境

岡崎市社会教育審議会からの意見

岡崎市社会教育審議会では、平成 15 年 3 月に岡崎市教育委員会より「家庭における教育力の復活について」の意見要請を受けその提言書をまとめています。

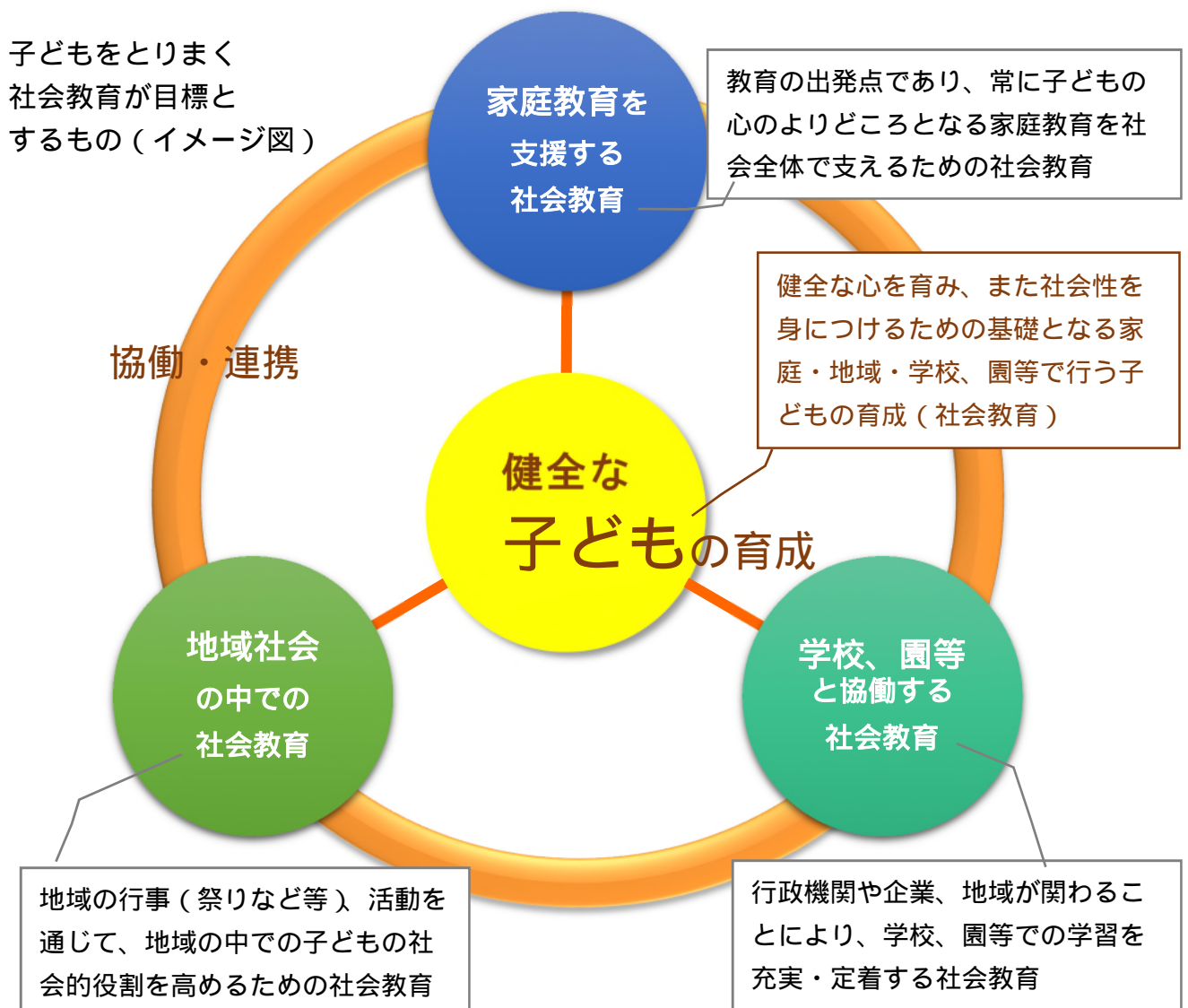
提言から 15 年余りを経過したこの間、少子・高齢化、核家族化、高度情報化は急速に進みました。地域社会では、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立が拡大し、さらに、子どもの貧困や不登校・引きこもりの問題などは、より多様で複雑化した課題に直面しています。

社会教育の役割は、地域住民同士の相互理解・活動を通じて、人と人との絆を強くする役割を果たすものであり、そのために何をすべきか、もう一度考えていかなければなりません。

その第一歩として、今回「子どもをとりまく社会教育環境」をテーマに平成 30 年 2 月から 2 年間にわたり、現在の子どもたちをとりまく環境を調査し、意見交換を行い、ここにまとめました。このまとめが、今後の社会教育施策を検討する一助として活用していただければ幸いです

この意見において子どもの定義は、0 歳から 18 歳程度としています。

意見を行うにあたり、3 つの環境（家庭・地域・学校、園等）から整理をしています。



健全な子どもの育成のために

現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 岡崎少年愛護センターでは、各学区民生委員・児童委員、小中高校の生徒指導の教員、岡崎警察署の職員などの指導員が、街頭補導や少年相談などの少年の健全育成と非行防止の活動を行っている。➤ 朝食を食べないことがある子どもが年齢とともに増える傾向がある。健康に生活するためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活をするのが重要であり、「早寝早起き朝ごはん」の習慣づけなど食育の推進に取り組んでいる。➤ スマートフォンの急速な普及によりインターネット環境が変化する中で、子どもたちがインターネットを介して犯罪やトラブルに巻き込まれやすい状況にある。こうしたことから子どもや親子に対して行う出前講座やPTA連絡協議会による保護者への啓発を行っている。
----	--

審議会での意見

○時代と共に子どもたちを取りまく社会環境は大きく変化し、問題の傾向や課題は複雑、多岐にわたっている。様々な機関が個々に「健全な子どもの育成」に取り組んでいるが、今こそ家庭・地域・学校、園等・行政・企業がそれぞれの立場や役割を認め合いながら**これまで以上に連携**し、以下の事例のような課題解決に向けて努力していくことが必要である。

事例

食育の推進を深めるために、食料の生産から消費に至る食の循環を意識して多くの関係者により食が支えられていることを理解して食に対する感謝の念を深めていくことが必要である。

事例

情報化社会において、インターネットなどの便利なツールは、魅力的である反面、その裏には危険が潜んでいる。情報への倫理観が未成熟なまま使用することにより、子どもたちが被害者にも加害者にもなり得る。子どもたちに情報機器に触れさせる前に、その危険性やルールについて、家庭・学校・企業等で学ぶ機会を設けるなど、より一層啓発に努めていくことが望ましい。

家庭教育を支援する社会教育

現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 教育の原点は家庭にあるという教育基本法及び「家庭における教育力の復活について」の趣旨を踏まえ、「家庭の日」の周知を行っている。啓発ポスターを募集し、選定した最優秀作品をもとにポスターを作成し、学校、公共施設等に掲示を依頼している。➤ 地域・学校と連携した家庭教育のための体制づくりを支援するため、2年ごとに市内2学区を家庭教育推進地区として委嘱している。委嘱された学区では協議会が組織され、年間を通し各種のふれあい活動や実践活動が実施されている。➤ 核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状が指摘されており、家庭の教育力の低下が懸念されている。こうした不安を持つ親に対し、子育て支援を図るため、子育てネットワークと協働で親子を対象とした「わいわい子育て講座」を開催している。➤ 核家族が全体の9割、また女性の就労率も半数を超えており、子どもたちは、日中、乳幼児期では各園で、また就学後は学校と学童保育で過ごす時間が多くなる。家庭で過ごす貴重な時間で親子の関わりを深めることが重要となっている。
----	--

審議会での意見

- 子どもが初めて関わる家族という小さな社会の中で、家族の愛情を感じ、成長することはとても重要である。家族がお互いに成長していくために、親自身が学ぶ環境を整えることが大切である。
- 学校教育だけでは十分に体得しづらい社会や自然とのかかわりを、家族で共有できることが望ましい。
- 家庭の中で積極的な会話や行動により、子どもの心地よい居場所を確保し、社会人となっていくための体や心の成長を支える家庭教育を行うことが大切である。
- 子どもの成長という喜びの反面、仕事と子育ての両立という時間的な制約によるストレスが発生する。家庭にとって過度な負担とならないような家庭教育の推進をこれまで以上に支援するとともに、地域の中では、支え合う家庭教育環境を目指すことが大切である。
- 子育ての悩みや不安を抱え、家庭（主に保護者）が孤立しないように地域を主体とした支援ネットワーク作りが必要と考える。
- 貧困、家庭環境など様々な要因により困難を抱える家庭への支援も重要である。また、子ども自身がこれらの要因を「困難」ととらえるのではなく、行政・学校、園等をはじめ、周りの大人、子ども同士の支え合いにより、「困難」をのりこえ「生きる力」に変えるような仕組み作りが必要と考える。
- 子ども食堂を例とした活動など、困難を抱える子どもやそれ以外の子どもが集い安心できる子どもの居場所を地域の中に広められるとよい。

地域社会の中での社会教育

現状	<ul style="list-style-type: none">➤ 学区社会教育委員会の活動は、昭和 26 年に岡崎市公民館条例が制定され、各小学校に公民館が併設された際に、小学校区ごとに設立された組織である。今まで継承されてきた地域と学校をつなぐ全国的にも例の少ない重要な社会教育団体である。➤ 学区社会教育委員会は、PTA や子ども会など学区の諸団体の委員により構成され、学区住民の教養や文化の向上、青少年の育成などの様々な活動を行っている。その運営は諸団体の自主性に任されているが、地域と学校をつなぐという役割上、学校に依存する部分がある。➤ 地域の伝統的な祭りなど文化財の継承が後継者不足により難しい状況となっている。後継者育成には、まず、子どもたちが地域に伝わる伝統行事の大切さを理解し、郷土を愛する気持ちを高めることが必要であり、意識を高めるための伝統文化出張講座などを行っている。➤ 子ども会は、地域の子どもの自主性と社会性を高め、日常生活を健全で豊かなものにし、地域社会における児童の福祉の増進に資することを目的として、子どもたちやその保護者等により組織された団体である。近年、子ども会への参加が減り、活動団体も減少している。
----	--

審議会での意見

- 学区社会教育委員会の活動は、地域の中で子どもたちの成長を見守り、地域に根ざした豊かな人間性を培う上で大切な役割をもっている。過去からの事業や組織を継承するだけでなく、構成団体と相談しながら、事業内容の見直しなどを検討し、将来に向けて持続

可能な活動をしてほしい。学区が主体となって協力しながら、地域と学校がこれまで以上に連携して、学区社会教育会の活動の活発化を推進してほしい。

○地域にある祭りなどの文化財は、地域住民がつながる機会となる。子どもたちが、文化財の歴史を理解し、参加することにより、その地域に対する愛着や誇りをもつよう継承するための手立てを明示してほしい。

○スポーツや文化など地域には様々な学びの環境があるが、ゆとりのない生活は子どもにとっても負担にもなる。子ども自身の意思も尊重しながら、子ども自身が主体性をもって学べる環境づくりが大切である。

○子ども会の活動は、家庭や学校、園等でも味わえない、地域のつながりや異年齢の子ども同士での遊びを体験できる貴重な活動である。また、保護者にとっては地域全体で子どもたちの育成をするという役割を担う意義を認識して、地域の中で保護者の負担軽減や父親の参加等の方策を話し合っって継続を図ってほしい。

学校、園等と協働する社会教育

現状

- 各種施設見学や社会教育施設の活用、環境学習や出前講座など子どもたちの学校、園等での学習を充実・定着するための事業を実施している。
- 平成 29 年 3 月に社会教育法が改正され、幅広く地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える「学校を核とした地域づくり」を目指した「地域学校協働活動」の推進が期待されている。
- 各学区では、学区社教や P T A などによるあいさつ運動が盛んである。社会教育審議会でも駅前や岡崎公園イベント会場等で保護者・大人への「あいさつ運動啓発活動」に取り組んでいる。
- あいさつ運動の実態調査アンケートを行った結果、家庭や学校内ではよくあいさつができているが、近隣地域でのあいさつが不十分であることが課題となったため「大人から地域の子どもに声をかけていただきたい」と啓発を行っている。

審議会での意見

○行政や企業、また地域社会において子どもたちの学習を支える事業を推進できるとよい。利用ニーズの集約を行い、利用方法を広く周知するなど、学校、園等にとっても使いやすいよう、教育プログラムの内容（対象者、時間、目的）を明確にする。教員の多忙化解消にもつながるよう方策の検討を進めてほしい。

○社会教育施設においては、子どもたちの学びを深めるためのプログラムの構築や明示、プログラム実施に向けての環境整備を行うほか、その成果を情報共有するための広報に努めることが望ましい。

○出前講座のような取組みは重要な社会教育の一つである。出前講座の内容をニーズに合わせて明確にすることで、学校、園等で活用されやすくなるのではないかと。

○あいさつは尊厳や親愛の気持ちを表す動作で人として欠かせない大切なことである。社会教育審議会では 14 年前より「あいさつ運動」に取り組んでおり、地域や学校、園等と連携して今後も確かな取組みを図っていききたい。